



第23回

嘉祥園夏祭り

平成27年8月7日(金)、嘉祥園駐車場ロータリーにおいて、第23回嘉祥園夏祭りを開催致しました。昨年は台風の影響で中止となりましたが、今年は天候にも恵まれ、盛大に開催することができました。舞台余興では、天神会子供会による歌のステージや龍桜高校ブラスバンド部の演奏、日本民踊カトリア会による踊りなどがありました。

その後、お楽しみ抽選会や大隅弥五郎太鼓演奏、嘉祥園名物ナイアガラ花火などがあり、滞りなく無事に終えることができました。ご協力頂きましたボランティア並びに関係者の皆様、本当に有難うございました。



名物「ナイアガラ花火」



第51回

霧島国分夏祭り

7月18日・19日に「第51回霧島国分夏まつり」が開催されました。昨年に引き続き、今年も「おはら節」「ハンヤ節」に加え「おじやんせ霧島」が導入され、私共も事前に練習を重ねて本番へ望み、楽しくきつちりと踊りきることが出来ました。2日間て延べ12万人を超える方々が訪れ、今年の霧島国分夏祭りも大盛況のうちに終了することが出来ました。スタッフ、関係者の皆様本当にお疲れ様でした。



恩師伊藤龍吟先生の教え—— 「平凡な事、当然の事を行いきる」

古来日本人が親しんできた中国唐代の詩人白楽天は、また熱心な仏教者でもありました。

ある時、師匠の道林和尚に「仏教とは一体どんな教えなのでしょう」と訪ねますと、和尚は「諸悪莫作 衆善奉行(一切悪い行いはしてはならない。すべて善い行いをせよ)」ということ。それが仏の教えだ。」と応じました。「そんなことは三歳の子供だって知っていますよ。」と白楽天が軽々と反応しますと、和尚は、「確かに三歳の子供もそれは知っているだろう。だがしかし修養をつんだ八十歳の老人でもそれを実際に行いきることは難しいものだよ。」と論ずように答えました。

その時、白楽天は何かを自覚するところがあったとみえ拝聴して立ち去りました。

古書に記されている師弟問答の一コマです。

わが子が「人様に迷惑をかけない人間・人様のためになる人間」になることを願わない親がいるでしょうか。人の子の親は皆同じです。またその親の願いが分からない子はいないはずです。

しかしさきほどの故事が示すように真実親に喜ばれる人間になりきることは容易なことではありません。そのためにはお互い普段の努力と修養が必要だと思ふのです。

※この文章は、伊藤龍吟先生(平成七年十二月死去)が生前鎌田グループの社員におくられた手紙の中から抜粋したものです。鎌田社長が敬慕してやまなかつた高校時代の恩師で、軽費老人ホーム慶祥園・特別養護老人ホーム嘉祥園・在宅福祉援助センター瑞祥園の名付け親でもあります。